

令和7年度 第2回 守山市社会教育委員会 議事録（摘録）

- 1 日 時：令和8年2月25日（水） 午前10時00分から午前11時05分まで
- 2 場 所：守山市役所 41・42会議室
- 3 出席者：委員9名（清水委員長、藤井副委員長、森川委員、廣瀬委員、高崎委員、大崎委員、中島委員、田中委員）
事務局7名（辻本教育長、神藤部長、中野次長、川中課長、佐野参事、真鍋社会教育統括員、徳野）
傍聴者0名
- 4 議 題
報告事項（1）令和8年度事業経過報告について
協議事項（1）第5次守山市社会教育・生涯学習まちづくり基本計画の総括について
現行計画の概要
現行計画における取組成果および課題について
（2）第6次守山市社会教育・生涯学習まちづくり基本計画の策定について
自治会ヒアリングまとめ
次期計画 章立て（案）
（3）令和8年度事業計画（案）について

《会議記録》

1 開会

- （1）委員長あいさつ
- （2）教育長あいさつ

2 報告事項

令和7年度事業経過報告について
→資料1に基づき事務局より説明。質疑応答特になし。

3 協議事項 ※原案どおり承認

- （1）第5次守山市社会教育・生涯学習まちづくり基本計画の総括について
→資料2、3に基づき事務局より説明。質疑応答等の内容は別紙のとおり。
- （2）第6次守山市社会教育・生涯学習まちづくり基本計画の策定について
→資料4、5に基づき事務局より説明。質疑応答等の内容は別紙のとおり。
- （3）令和8年度事業計画（案）について
→資料6に基づき事務局より説明。質疑応答特になし。

4 その他

特になし。

5 閉会

質疑応答等【協議事項(1)】

第5次守山市社会教育・生涯学習まちづくり基本計画の総括について

委員	資料3「1 まちづくりの現代的課題に対する施策の展開」の課題に「家庭だけのICTリスクへの対応が困難」とあるが、どのようなものか。
事務局	スマホやタブレットを利用する上でのリスク等について、家庭だけで指導などの対応をするのが困難になっている。
委員	学校は学習用タブレット貸し出しており、午後10時まで利用可としている。利用時間が長いという声もあり悩ましい。学校のみ対応は難しく、家庭の協力も必要である。
委員長	子どもへの指導は学校任せになってしまうところがあるが、保護者向け、子ども向けに小学校で指導することはあるか。
委員	P T A主催でネット被害防止教室を高学年と保護者を対象に実施した。参観後に実施したが、保護者の出席は少なかった。講師である県警のサイバー対策課の方からは、タブレット等の機器を与えているのは保護者であるため、子どもと一緒にルール作りをすることが大切であると話されていた。
委員	3月21日、市民協働課が企業とまちづくり団体の交流会を開催する。市長部局と教育委員会部局で共有・連携してもらえると良い。
委員長	課題が浮き彫りになっているが、成果もあったと思う。成果にもしっかり目を向け、そのうえで課題にしっかり取り組んでいくことが重要である。特に、地域の担い手不足について意見はないか。
委員	文化協会においても資料3に記載の通り、高齢化で新しい人が入ってこない、後継者が育ちにくい課題がある。 現に活動されている方が亡くなれると解散せざるを得ない団体もある。体験会を計画するなど、各団体で手は講じているが、なかなか広がりにくい。令和8年度に文化協会と学校教育課で夏休みに小学生の体験会を2回程度計画しており、そこからどう広げるかが重要と思っている。

質疑応答等【協議事項(2)】

第6次守山市社会教育・生涯学習まちづくり基本計画の策定について

発言者	内容
委員	赤野井自治会長は新規の取り組みに熱心で、諏訪家屋敷のPRにも力を入れておられる。まちづくりを進めるには、自治会長のビジョンが明確であって、周囲のサポート体制が必要不可欠である。
副委員長	多くの自治会で役員の担い手がない。自治会長は2年程度で交代しており、継続的に取り組めると良いが難しいのが実情である。
委員長	勝部は火まつりを核として青年層を盛り上げている。また、自治会長の思いとそれを取り巻く役員が一体となり自治会を盛り上げている印象がある。

	播磨田は、サロンを３か所で実施するなど多くの方が参加しやすいように工夫し活動されている。
委員	市内で子育てサークルなどが複数作られているが、公民館などの子育て教室にはいかないなど、活動の形態が変わってきている。 また、これまでの活動を継続する良さと新しい感覚で新しいものを作ることの良さはそれぞれあり、上手に整合を取ることが大事である。 自治会活動については、自治会に任せっきりになったり、その場限りとなることがあるため、参加者は活動の意図や、自己の所属感が明確になると、高齢者だけでなく若い人にとっても自身の居場所が明確になり、それがまちづくりにつながると思う。
委員	赤野井の自治会長は積極的に様々な行事に取り組んでおられる。漢健サロンについて、元教員２人でやっており、参加者は熱心で継続へのニーズが高いが、後継者確保の不安である。 また、受験する級が上がっており、運営の工夫が必要となっている。漢健サロンは勉強だけでなく、世間話や体操をする場として、高齢者のよりどころとなっている。
委員	資料５ 新計画の第３章「(1)子育てと家庭教育力の向上」について、他の項目は「充実」、「推進」、「醸成」としており、「向上」という文言に違和感があるため調整してはどうか。
事務局	表記について、再度検討する。
委員	自治会の担い手不足は共通した課題であり、任期が長いと成り手がなない。他団体で半期決算とし、任期が数か月のところがあり、精神的負担の軽減が図られている。自治会においても任期の短縮を試験的に実施できるのであれば、市として支援してはどうか。